

令和6年度〔自己評価報告書〕

学校番号	202	学校名	川崎市立南大師中学校	校長名	熊木 節子
------	-----	-----	------------	-----	-------

<p>学校教育目標</p> <p>(1)何事も科学的に処理できる人をめざそう。 (2)社会生活のすべてを民主的に行える人をめざそう。 (3)豊かな教養を持った人をめざそう。 (4)健康で働く意欲のある人をめざそう。 (5)世界の人々から尊敬される人をめざそう。</p>		<p>今年度の重点目標</p> <p>○生徒の安全を第一に考えながら、生徒が充実感・達成感を味わえる、自己肯定感を高められる教育活動を創意工夫して実践する。 ○「主体的・対話的深い学び」の実現のため、GIGA端末等を積極的に活用するとともに、魅力的な授業展開を工夫して、生徒の学習意欲を高める。また、基礎基本の定着を図るために、わかりやすい授業を実践する。 ○平和学習を継続し、思いやりをもった、平和の尊さを深く理解できる生徒の育成を図る。 ○創立70周年・川崎市制100周年に向けた取組</p>
--	--	---

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導・教育課程	<p>○生徒が主体的に授業に参加できるように学び合いを多く取り入れ、「主体的・対話的深い学び」を授業展開の中で工夫した。 ○小中連携教育では、キャリア在り方生き方教育にかかわる小中合同職員研修会を実施した(四谷小・大師小)。 ○中高連携教育では、相互に授業参観を実施した。(大師高)</p>	<p>○授業実践を通じて、教師や生徒にも「主体的・対話的で深い学び」の大切さが浸透しつつある。 ○小中合同職員研修会を通して、地域で暮らす子どもたちとともに育っていく意識を共有できた。 ○相互に実施した授業参観をふまえ、書面や中高担当者による対面での意見交換や情報交換を行い、課題を共有した。</p>	<p>○教育課程研究会で学んだことを今後の授業に生かす。 ○図書室の整備を進め、図書利用や読書活動が活発になるようにする。また、総括学校司書とも連携し図書の充実を図る。 ○異校種間連携の課題に対する方策やより良い連携の在り方について検討する場面を増やす。</p>
2 生徒指導・特別活動	<p>○あいさつや日常的な声かけ、教育相談活動を通して、生徒の様子を把握し、迅速な対応に努めた。 ○学校全体で情報を共有し共通理解を図り適切な指導に努めた。 ○外部から講師を招き「サイバー犯罪防止教室」や「薬物乱用防止教室」を実施した。 ○生徒主体の行事を積極的にを行い、生徒の自己肯定感が高められるような工夫をする。</p>	<p>○教職員が生徒との良好な関係を築くために、きめ細やかな声かけに努めている。 ○定期的な教育相談以外に、生徒が相談しやすい環境の整備や時間の確保が必要である。 ○「サイバー犯罪防止教室」や「薬物乱用防止教室」は、生徒の安心・安全な生活のためにより学びの場となった。 ○学校行事や生徒会行事に生徒の意見を反映させることにより、一人ひとりの自己肯定感を高めることができた。</p>	<p>○カウンセリングガイドを大切にしたい支援や指導の充実を図り、より確かな信頼関係づくりに努める。 ○生徒の不安や相談に、全職員が関わりをもてるように職員の意識改革を進めるとともに、役割分担を明確にして対応する。 ○長期欠席者とその保護者には丁寧な対応を心掛け、組織的に関わっていくとともに、アプローチャの方法を工夫し、本人、保護者の意向に沿った指導、支援を進める。 ○短い準備期間でも安定した行事運営ができるように、取組の成果と課題は毎年積み重ねていく。</p>
3 保護者・地域社会等との連携	<p>○掲示板に学校便りや写真を掲示し、大会で結果を残した部の横断書を校外壁に掲示した。また来校された方へ向け職員室前に学校学年便りや写真を掲示し、広報活動に取り組んだ。 ○生徒の主体的な活動の場として、地域での様々なボランティア活動や地域教育会議子ども会議等を支援した。 ○体育祭や文化祭といった学校行事で、PTAの方に専方として活動を支援していただいた。 ○2回目の学校運営協議会には代表生徒が1年間の活動について報告を行い、地域の方に生徒会活動について理解していただいた。</p>	<p>○学校内外に掲示物や横断書を掲示するといった広報活動は年間を通して定期的にこなしたが、学校HPの更新が滞ってしまった。 ○今年度は学校行事を予定通り行うことができ、コロナ前の活動にほぼ戻った。行事の精選を行っていく必要性を感じた。 ○ミマホームを活用して保護者に各教科の年間計画を発信したり、自然教室や修学旅行といった宿泊行事では定期的にメールを配信して、活動の様子を家庭に連絡することができた。 ○PTA行事へ積極的に参加して、保護者からの信頼を高め、地域に根ざした学校づくりをさらに推進していく。</p>	<p>○掲示板や学校ホームページの定期的な更新を担当者と連携して行い、教育活動を積極的に発信していく。 ○ボランティア活動を推進し、地域に貢献する生徒の育成に努めていく。 ○学校評価アンケートを有効に活用し、結果を精査することで教育活動の点検と改善を行う。 ○次年度も定期的に学校運営協議会を実施し、もって地域の方に学校を知ってもらったり、多くの教員や生徒たちが会議に参加することで、地域連携の推進を図る。</p>
4 平和教育	<p>○令和2・3年度の教育課題(平和学習)の研究主題である「さまざまなアプローチャから平和について学ぶ試み」のもと全校体制で平和学習を推進していく。 ○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成をめざし実践を重ねる。</p>	<p>○広島への修学旅行を集大成とした系統的な平和学習の実践を推進した。実際に広島を訪れ、平和の尊さをより深く理解することができた。 ○各学年、各々が課題を設定し、段階に即した平和学習を行い、周年行事の発表や掲示物で交流することができた。</p>	<p>○学年間の連携を強化し、各学年ごとに取組んだ平和学習の成果をまとめるとともに、本校における「平和学習スタンダード」の確立をめざす。</p>
5 健康・安全教育	<p>○薬物乱用防止教室、性に関する教育は外部講師による講演会、熱中症予防、食育は学級担任による学級活動として実施できた。 ○昨年度の防災教育研究推進校としての取り組みを生かし、避難訓練や防災教育を通して、防災意識の向上に努めた。</p>	<p>○健康課題について考え、日常生活で実践しようとする姿勢がみられた。 ○集団下校訓練・垂直避難訓練・シェイクアウト訓練等の実践的な訓練を通して、生徒の防災に対する意識の向上がみられた。</p>	<p>○生徒に健康意識を高めてもらうためにも、今後も継続して行う。また、テーマや開催時期によって形式を検討していく。 ○危機管理意識の向上を図られるよう、様々な災害を想定した訓練を継続的に実施する中で、防災意識の向上に努めていきたい。</p>

6	特別支援教育	<p>○個々の生徒の事態に応じ、年間を通して多くの職員でかわりをもつことができた。</p> <p>○特別な支援が必要な通常級の生徒について、関係機関とも連携し支援方法の工夫・改善に努めた。</p>	<p>○関係機関とも連携し全職員で共通理解を図ることができた。</p> <p>○支援が必要な生徒の困り感や、個に応じた指導方法について、専門家等も交えて話し合い、適切な対応をする。場合により外部機関と連携し、ケース会議を計画的に実施していくことができた。</p>	<p>○生徒の困り感や保護者の願いに寄り添い、生徒の個性を受け止め、支援方法などについて、さらに工夫、改善していく。</p> <p>○多くの職員やスタッフが関わり、全校での共通理解を図っていく。また、積極的に外部機関と連携し多角的に支援していく。</p>
7	キャリア在り方生き方教育	<p>○「キャリア在り方生き方教育」の研究成果を生かし、継続して実践と研究を推進していく。</p> <p>○生徒が学校生活に関心をもち、より積極的に、充実した毎日を送ることができ、自己実現が図れるように援助していく。</p>	<p>○キャリア在り方生き方ノート及びキャリア・パスポートの活用を継続して行った。</p> <p>○研究成果をもとに「キャリア在り方生き方教育」の視点から、学校成果の在り方や教育活動を見直し取り組むことができた。</p>	<p>○教科の年間指導計画の中に、さらにキャリア在り方生き方教育を位置付けていく。</p> <p>○3年間を通してきめ細かな「キャリア在り方生き方教育」を進め、夢や希望の実現につながるような教育課程を編成する。</p>
8	職員研修	<p>○校内研修として心肺蘇生法、AEDの使い方についての研修を行った。</p> <p>○昨年度に引き続き、業務改善推進に向け、業務改善について考え、実施していくための研修を行った。</p> <p>○いじめ防止、体罰根絶、教職員の不祥事防止等の研修を適宜行った。</p> <p>○年間を通じて定期的に避難訓練を行い、本校の防災力の向上、生徒の防災意識の向上を図った。</p>	<p>○毎年、心肺蘇生法やAEDの使い方を研修することで、緊急時の対応について意識を高めることができた。</p> <p>○取り組むべき教育課題や今日的な課題について研修し、職員の資質向上等につながった。</p> <p>○津波を想定した避難訓練や、生徒に予告をしないシミュエーション訓練の実施などにより、教職員を含め防災意識を向上させることができた。</p> <p>○夏季特別研修を行うことで、職員が今までの自分の授業を振り返り、今後の授業の在り方や進め方について、じっくりと考える機会となった。</p> <p>○研究推進である「キャリア在り方生き方教育」について、定期的に研修や講演会を行い、職員の資質を向上させることができた。</p>	<p>○平和の尊さを深く理解できる生徒の育成と、本校における「平和教育スタンダード」の確立をめざして、さらに研究を推進する。</p> <p>○共生＊共有を継続的に推進し、すべての生徒にとって居心地の良い学校、学級をめざす。</p> <p>○生徒たちの健全育成のために、情報モラル教育を計画的かつ継続的に実施する。</p> <p>○GIGAスクール構想やキャリア在り方生き方教育といった、取り組むべき教育課題や今日的な課題について継続的に研修し、職員の資質向上を図る。</p> <p>○職員研修としてOJ研修を取り入れて、職員内で切磋琢磨することで職員の資質向上を目指したい。</p>

<p>○70周年記念式典を通して、生徒たちの素晴らしい取り組みを見ることができた。71年目に向けて継続してほしい。</p> <p>○地域教育会議子ども会議「南中で遊ぼう」では、部活動の生徒達が運営に協力をしてくれた。1時間あまりの時間だったが、参加した小学生が楽しかったと帰っていった。地域の人との関わりもできて良かった。</p> <p>○生徒の学ぶ場として、「相談室」「寺子屋」の活動は今後もさらに充実してほしい。</p> <p>○特別な支援が必要な生徒への対応をさらに充実させてほしい。</p> <p>○平和教育はとてもしっかり取り組みである。こういう世の中だからこそ継続して学んでいく必要があると思う。</p> <p>○情報モラル教育を生徒向けにはおこなっているが、保護者向けにも必要ではないか。PTAとタイアップするなどして実施を検討してみてもどうか。</p>	<p>学校運営のまとめ</p> <p>○生徒一人ひとりの居場所づくりを目指して取り組んできた。「学級作り」「相談室」「寺子屋」等生徒にとって安心して生活のできる環境作りにも今後も努めていく。</p> <p>○生徒の健全な成長を目指して、生徒に寄り添い、家庭、地域や行政機関との連携を深め、きめ細やかな取り組みを継続して行う。</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業展開を工夫するとともに、楽しい授業・わかる授業の実践し、基礎学力の定着をめざす。</p> <p>○地域で子どもたちを育てていくために、小・中・高連携教育の充実を計画的に行っていく。</p> <p>○学校評価の結果を分析し、課題の改善に向け全職員が共通理解のもと取り組んでいく。</p>	<p>学校関係者の評価</p>
--	--	-----------------